

大阪・関西万博の運営における 資源循環に係る対応の方向性（案）



公益社団法人
2025年日本国際博覧会協会
企画局持続可能性部

大阪・関西万博の運営における資源循環に係る対応の方向性(案) 1/7

■基本的な考え方

- 来場者視点も交えて会期期間中の来場者に関連する部分を中心に資源循環についての方針を検討する。
- ①廃棄物を極力発生させない会場運営、②廃棄物は極力リサイクル(熱回収を除く)、③熱回収も含めた全量循環的利用を目指す。
- 政府の基本的な方針である3R+renewableや食品リサイクルの優先順位を踏まえた検討とする。
- 環境負荷の少なく、2025年時点で最先端かつ実現可能な方法の導入を目指す。ただし、現時点での環境負荷だけで決めず、2050年時点の環境負荷削減の可能性や実現可能性を視野に入れて複数の手法を用いる。
- 参加型、普及啓発効果、会期後・会場外でのレガシーを残す方策も視野に入れて検討する。
- 会場内における参加者、営業出店者が歩調を合わせられるものとする。

大阪・関西万博の運営における資源循環に係る方向性(案) 2/7

■食器類

- レストラン等のフルサービスを提供する飲食事業者は陶器、金属等のリユース食器を使うことを原則としてはどうか。
- フードコート・ファストフード・キッチンカーなどセルフサービスで提供する飲食事業者ではプラスチック等のリユース食器を導入できるよう検討を進めてはどうか。
- プラスチック等のリユース食器の供給能力が足りない場合等は、堆肥化可能なワンウェイ食器を用いて、食品と一緒に堆肥化することや、その他の資源化を検討してはどうか。
- ワンウェイ食器の素材については、①分解の容易さ、②使用する原料の環境負荷の低さや環境保全への貢献度合い、③調達可能性を勘案して決めてはどうか。
- なお、プラスチック資源循環法の特定プラスチック使用製品であって会場でも多用される可能性のある製品(フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー、ストロー)については、法律の趣旨も踏まえた対応を検討する必要がある。

大阪・関西万博の運営における資源循環に係る方向性(案) 3/7

■飲料容器

- マイボトルの持ち込みについての警備上の論点も踏まえた上でマイボトルの持ち込みを推奨するとともにマイボトルが使用できる環境を整える。また、外部と連携して、マイボトルの利用が会場外で一層盛り上がり、会期終了後も地域で取組が続くような工夫を検討してはどうか。
- 熱中症対策も踏まえペットボトル等容器入りの飲料の販売も可能とするが、販売等を行う事業者は、最新の素材(非化石由来、リサイクル素材等)の使用、回収率の向上策、水平リサイクルの実施について最先端のものを検討してはどうか。

大阪・関西万博の運営における資源循環に係る方向性(案) 4/7

■食品ロス

- 会場内の飲食事業者は入場券予約数に応じた食材の調達量をコントロールしてはどうか。
- 出店者は、食材の調達方法を工夫し、食品ロスの削減に努めてはどうか。
- 出店者は、無理なく食べきれる量やサイズのメニューの提供等の方法を検討してはどうか。
- 博覧会全体で食べ残しのないよう来場者に呼びかけ、ナッジなどの手法の導入も検討してはどうか。
- 食品衛生や品質管理について対応した上で売れ残りそうな弁当等を来場者の中の希望者が簡単に入手できるような仕組みづくりを検討してはどうか。
- 賞味期限や品質が担保された余った食材で子ども食堂等で利用可能なものがあれば、フードバンク等に渡せるような仕組みづくりを検討してはどうか。

大阪・関西万博の運営における資源循環に係る方向性(案) 5/7

■食品廃棄物

- 会場外の食品関連事業者と協力して食品リサイクルループを作り、食品廃棄物の一部を肥料化する。これに当たっては、食品の資源循環の姿を来場者に見てもらえることが可能となるよう工夫してはどうか。
- 食品廃棄物の一部をメタン発酵施設等においてメタン化するとともに、その残渣の肥料化の可能性を追求してはどうか。

大阪・関西万博の運営における資源循環に係る対応方針(案) 6/7

■容器包装、ノベルティ等配布物、一般的なプラスチック

- 製品の容器包装は少なくなるよう配慮する。
- レジ袋、プラスチックバッグの配布については、①有料化、②有料化したうえで生分解性のものに限定する、③配布も販売もしない(どうしても場合はエコバッグを購入してもらう)といった選択肢の中から検討してはどうか。
- 各パビリオンで配布するノベルティについては、電子的なもの(ゲームアプリ等)の提供も含めて環境負荷の少ないものとするよう検討を促す。実際にモノを配る場合であっても、①プラスチックの使用を削減し、②プラスチックを使う場合であっても生分解性等環境に配慮されたものとし、③すぐ廃棄されるようなものとならないようにしてはどうか。
- 傘袋については、ワンウェイの禁止の可能性を検討してはどうか。
- うちわについては、プラスチックを用いたものの禁止を検討してはどうか(紙や木、竹製等環境に配慮した素材のものとする)。
- 地図、パンフレットについては極力電子的に配布して紙の排出量を減らす。

大阪・関西万博の運営における資源循環に係る対応方針(案) 7/7

■ごみの分別

- 上記施策が円滑に行えるような分別を行う。
- それほど多くのごみが出ることが想定されないもの、会場内からの発生が少ないものについては、来場者に持ち帰ってもらうことを検討してはどうか(例:乾電池)。

■その他

- 物品の納品における輸送用具は再使用可能なもの(通い箱等など)を推奨してはどうか。
- 博覧会協会が用意するユニフォームも持続可能性に配慮したものとするとともに、パビリオン出展者に対してもユニフォームへの持続可能性配慮を求めてはどうか。
- こうした取組について、特に優良な参加者や営業出店者を表示、表彰するようなことを検討してはどうか。